

SPring-8 ユーザー協同体 (SPRUC) 四季報

SPring-8 ユーザー協同体 (SPRUC) 会長
 関西学院大学 研究創発センター
 水木 純一郎

2020 年最初の四季報です。今年も SPring-8 が国際的に注目される成果を創出し、ユーザーにとっても利用しやすい施設となるように様々な SPRUC の活動を計画しています。皆様の積極的なご参加を期待しています。

先程、第 33 回日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウムから帰ってきました。今回特に印象に残ったのは、動き出した次世代放射光計画（これまで東北放射光計画 (Slit-J) として取り組まれていた）を担当している組織やビームライン検討委員会からの進捗状況に関する発表でした。自らの努力が新しい利用に繋がり、それが実現に近づいてきているというダイナミックな熱気を感じました。ご承知のように SPring-8-II に向けたビームライン (BL) の再編やアップグレード (UG) に関する議論が始まっています。我々 SPRUC 会員も UG に向けた議論に積極的に関わり、SPring-8 から様々なイノベーション創出を実現したいと思います。今回の四季報では、日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウム期間中に開催された評議員会、特別総会、また 2019 年 12 月 24 日に持ちました 3 者会合の内容を中心に報告します。

1. 評議員会

評議員会は、2020 年 1 月 10 日の 11 時～12 時まで行われました。ここでは 2019 年 12 月に行われた評議員選挙の結果、また評議員会での報告事項の中で強調したい事項をご報告し、懇談事項に関しては、3 者会合のところでご報告いたします。

I. 評議員選挙結果

評議員 30 名の内、15 名が改選され、新しく以下の 15 名の方が評議員に選ばれました (学術研究機関

から 10 名、産業機関から 5 名)。足立伸一、雨宮健太 (高エネルギー加速器研究機構)、内海渉 (量子科学技術研究開発機構)、岡島敏浩 (あいちシンクロtron光センター)、尾嶋正治 (東京大学)、北川進 (京都大学)、坂田修身 (物質・材料研究機構)、高田昌樹 (東北大学)、田中義人 (兵庫県立大学)、水木純一郎 (関西学院大学)、北村祐二 (ブリヂストン)、黒岡和巳 (パナソニック)、鈴木孝尚 (豊田中央研究所)、林和志 (神戸製鋼所)、宮川篤 (DIC) (敬称略)。2020 年 4 月から 2 年間よろしく願いいたします。

II. SPring-8 シンポジウム 2020 開催計画

2020 年度の SPring-8 シンポジウムは、2020 年 9 月 18～19 日につくば国際会議場で開催されることが決まりました。木村昭夫 (広島大学) 次期会長の組織委員長の下、具体的な計画が進み出しましたので、皆様におかれましては日程の確保をお願いいたします。

III. 第 2 回 BLs アップグレード検討 WS の開催計画

2019 年 3 月に開催しました第 1 回に引き続き、第 2 回目を 2020 年 2 月 21～22 日の 1.5 日間の日程で BLs アップグレード検討 WS を開催いたします。趣旨に関しましては、本号の告知板をご覧ください。

本記事の冒頭にも述べましたが、SPring-8 が今後とも国際的な競争力、科学技術の牽引力を発揮するためには、ユーザーの要望を施設側にしっかりと伝え、施設側と議論し、それらの結果が UG に反映されることが重要です。すでに施設側も BL の再編、および、硬 X 線分光 BL (XAFS や HAXPES) に対する検討が始まっており、第 1 回目の WS ではそれらについての報告、および議論がありました。第 2 回目の WS では、これら BL の具体的な UG 案を含め、

核共鳴散乱 (NRS)、非弾性 X 線散乱 (IXS) の BL についての再編、UG の具体的な検討に向けた討論を中心に議論を進めていく予定です。以降、検討した BL が再編、UG が実行フェーズに入れば、継続的に次の BL 再編、UG の具体的な検討、議論を展開するという方法で進めていくことを考えています。

2.3 者会合

今回の会合では、主に (1) 第 2 回 BLs アップグレード検討 WS の進め方、(2) Science Promotion Board (SPB)、(3) SPring-8 シンポジウムでの企業展示、について懇談しました。

(1) については、先に記述しましたように HAXPES、NRS、IXS について、BL 再編、UG の具体的な検討が始まり、利用者との個別議論も開始されています。今後の WS では、その次の BL 再編、UG 対象の洗い出しを行えるようにすると効率よく BL 再編、UG の検討、議論が進むであろうことを確認しました。(2) については、設置目的とその意義について前号で述べました。しかし、SPB から有効な助言を得るためには、設置の目的を具体化した方が良く、また、その目的に合った名称を検討してはどうか、SPRUC 内の組織としてどのような位置付けにするか明確化するように SPB 内で議論したほうが良い、有意義に且つ持続可能となるような仕組み作りも重要である、などの助言、意見がありました。以上の懇談内容を受け、SPRUC 第 2 回 BLs アップグレード検討 WS 後にキックオフ会議を開催し、組織の意義、目的も含めて議論を開始いたします。以下に SPB メンバーをご紹介します。

生命科学分野：栗栖源嗣（大阪大学）

物質科学分野：有馬孝尚（東京大学、利用委員長）、
常行真司（東京大学）、水木純一郎（関西学院大学）

産業分野：本間穂高（日本製鉄）、佐野雄二（東芝、
JST、分子科学研究所）

J-PARC 関係：金谷利治（J-PARC：MLF）

（敬称略）

また、オブザーバーとして施設側から、石川哲也センター長（理化学研究所）、雨宮慶幸理事長（JASRI）にも参加していただきます。さらにできるだけ顧問

の先生方にもご出席いただきご意見を伺えればと考えています。

(3) については、以前から SPRUC の財政的な自立の必要性を課題として代表機関会議でも懇談しましたが、数社から SPring-8 シンポジウムで企業展示をしたいという申し出がありました。SPRUC 内のシンポジウム関係者では試験的導入を検討していることを報告しましたが、懸念事項として展示企業の重複も予想される放射光学会等に迷惑がかからないような配慮が必要、過剰な収入重視にならないような注意が必要、などがあげられました。これらの懇談内容を受け、SPring-8 シンポジウムの委員会で検討することにしました。

本号で私が担当する四季報は最後になり、次号からは木村昭夫次期 SPRUC 会長が担当いたします。

SPring-8 をより利便性の高い施設にしていくために、SPRUC を通して多くの会員が声を上げていくことが大切です。そのためにも SPRUC の活動をアップデートしていくことが重要と考え、この四季報を始めました。会員の皆様に役に立つ記事になったかどうか不安なところもありますが、私自身のために非常に役に立ちました。原稿の締め切りは 3 ヶ月毎です。筆の遅い私には少し苦痛ではありましたが、会長として SPRUC の活動を日記のごとく頭を整理し、考えるいい機会を与えてくれるものとなりました。木村次期会長にもこのメリットを伝授してバトンタッチすることにいたします。

水木 純一郎 MIZUKI Jun'ichiro

関西学院大学 研究開発センター
〒669-1337 兵庫県三田市学園 2 丁目 1 番
TEL : 079-565-7433
e-mail : mastery@kwansei.ac.jp